

「同志社看護」第6巻の発刊によせて

今年も「同志社看護」をお届けすることができました。これも関係の皆様のお力添えの賜物と心よりお礼申し上げます。

「同志社看護」は、看護に関する研究論文だけでなく、日頃の教育実践活動を取りまとめた教育実践研究や報告、あるいは社会貢献活動の成果報告、大学運営に関する内容など、幅広い内容を盛り込んでいきたいと考えております。第6巻には、投稿論文2編、実践報告2編を掲載しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大を受け、大学などの教育や研究活動にも多大な影響が出ています。看護学部の臨地実習においても例外でなく、臨地実習委員会が中心となりコロナ禍における臨地実習のあり方やその対応について協議を重ねたプロセスは「2020年におけるCOVID-19の状況と看護学部の臨地実習に関する対応」として掲載しております。誌面の裏にある先生方のきめ細やかな対応に感謝いたします。

2020年度は教員のみならず博士前期課程を修了予定者の研究活動においても患者様を対象とした調査時期や規模の変更、オンラインを用いた面接への変更、研究テーマの見直しなど研究の進捗に大きな影響を受けました。日本看護科学学会員（1532名）を対象にした新型コロナウイルス感染症による研究活動への影響に関する調査では、研究活動に費やす時間は65.1%が減少し、実験や調査の実施83.4%、「論文執筆」に費やす時間48.3%、学会や研究会などへの参加も79.5%が減少しており、研究活動に不安がある者は88.9%であることが明らかにされています。看護系の大学教員の場合、学部学生の教育、特に実習等の教育負担が大きいことや、妊娠・出産といったライフイベントにより研究活動は阻害されやすいという課題があります。今回のコロナ禍の影響により、研究活動の維持はさらに困難な状況であると思います。2020年5月に文部科学省から、教職員や学生等が感染拡大の予防に努めつつ研究活動を実施するにあたっての留意点、工夫例等についてまとめた「感染拡大の予防と研究活動の両立に向けたガイドライン（改訂）」が出ました。そのなかの研究継続のための取組事例も参考にしながら、可能な限り研究活動を維持していただきたいと思います。

最後に、「同志社看護」の発刊は、同志社女子大学看護学会の事業の一環です。教員のみならず、学生達と共に、この看護学部の未来をつくりあげていくことへの一つの足跡になることを願っています。

看護学部長 眞鍋えみ子

